

船舶事故調査報告書

平成25年11月28日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年12月8日 07時30分ごろ
発生場所	大分県大分市大分港東方沖 大分市所在の神崎港防波堤灯台から真方位083° 2.0海里付近 （概位 北緯33° 15.1′ 東経131° 49.6′）
事故調査の経過	平成24年12月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 漁政丸、1.7トン OT3-46732（漁船登録番号）、個人所有 7.61m (Lr) × 2.29m × 0.84m、FRP ディーゼル機関、58.80kW、昭和58年8月8日 第294-24599号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 70歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年3月12日 免許証交付日 平成24年1月20日 （平成29年4月3日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船体が分裂
事故の経過	<p>本船は、船長及び甲板員2人が乗り組み、前日に仕掛けたあなご籠を回収するため、大分市神崎漁港東方沖の漁場に到着後、手動操舵により、1～2ノットの対地速力で北西進した。</p> <p>本船は、船首方から波高約1.0mの波を受けて北西進中、2～3回続けて波高約1.5mの波を受け、平成24年12月8日07時30分ごろ、船首部が高波によって持ち上げられ、船尾部が海中に沈み、プロペラが暗岩に接触した。</p> <p>本船は、機関が停止し、北西からの風浪により、プロペラが接触した暗岩の約50m南東方にある大分港東方沖の岩場に流され、同岩場に乗り揚げた。</p> <p>船長は、海上保安庁に118番通報を行い、本船は、後に僚船によって陸岸に引き上げられたが、後日、廃船処分とされた。</p>

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 5 海象：波高 約1～1.5m、潮汐 下げ潮の末期、潮高 約1.4m (大分市佐賀関港) 日出時刻 07時03分 大分県中部には、波浪及び強風注意報が発表されていた。</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船の喫水は、船首約0.15m、船尾約0.83mであった。 船長は、本事故発生場所付近に暗岩が点在を知っており、ふだん、同付近を航行してあなご籠を回収していた。 船長は、出港時に1mを超える波があれば、出港はしないこととしていた。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>A あり A なし A あり</p> <p>本船は、波浪及び強風注意報が発表されていた大分港東方沖において、あなご籠を回収するために北西進中、船首方からの波によって船首部が持ち上げられ、船尾部が海中に沈み、プロペラが暗岩に接触したことから、機関が停止し、北西からの風浪に圧流され、大分港東方沖の岩場に乗り揚げたものと考えられる</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、波浪及び強風注意報が発表されていた大分港東方沖において、あなご籠を回収するために北西進中、船首方からの波によって船首部が持ち上げられ、船尾部が海中に沈み、プロペラが暗岩に接触したため、機関が停止し、北西からの風浪に圧流され、大分港東方沖の岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象情報の入手を心掛け、警報や注意報の発表時には、出漁を控えること。